

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472600776		
法人名	特定非営利活動法人 養老会		
事業所名	グループホーム「養老の泉」		
所在地	豊後大野市大野町大原1186番地1		
自己評価作成日	令和4年1月11日	評価結果市町村受理日	令和4年4月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が一人ひとり、安心して落ち着いた生活ができるよう、職員はさりげない声掛けで接するよう心がけています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=4472600776-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府壱番館 1F
訪問調査日	令和4年1月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の介護施設(有料老人ホーム・デイサービス)とグループホーム(1ユニット2ヶ所)があり、避難訓練・運営推進会議・行事・地域活動等共同で行い、利用者の交流や職員間の協力で、単独では得られない総合的な支援による運営が行われています。理念をもとに作成された行動目標にある「やさしい言葉と笑顔～」を基本に、利用者一人ひとりの暮らしの希望や思いに寄り添い、家庭的な雰囲気を大切に、楽しく笑顔に繋がる支援に取り組んでいます。管理者は、職員育成の重要性を認識し、全ての職員が更に質を向上させていけるよう各自の立場・経験値に応じた学びの場を提供しており、年間研修計画をたて、内部研修や動画・オンライン・eラーニング等で、今の支援状況にあった身体介護や対応の仕方等のスキルアップに全職員が真摯に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を共有し、理念に沿ったケアを心がけている。	「利用者本位」「チームワーク」を理念に、4項目の行動目標とともに、理想とするスタッフ像を掲げ、職員の見える場所(ホール)に掲示し、会議等で支援内容を振り返り、利用者の心に寄り添い、笑顔で対応しているかを確認し理念の共有と実践に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事に参加して交流を深めているが、コロナ禍のため、交流が難しくなっている。	自治会の一人として行事には積極的な参加・協力を行っていますが、現在コロナ禍により地域行事も縮小される中、清掃活動(草刈り・神社清掃)には職員が参加されています。運営推進会議を通し情報交換や関係継続に努めています。	コロナ禍により人的交流が困難になっており、今出来ることを工夫する考えが大切です。例えば地域に広報誌の配布(回覧)で事業所の近況報告・認知症の早期発見・地域の認知症に関する対応方法を相談する窓口となれるような取り組みを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため、勉強会のような機会を設けることができなくなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、会議は行われていない。文書で利用者の近況報告やヒヤリハット報告、事故報告等を行っている。いただいた意見は職員で話し合っている。	2ヶ月毎に運営推進会議を開催していますが、文書による意見交換となっています。11月にメンバー参加の上、事業所にて開催され、コロナ禍による影響(面会・外出自粛)・活動報告やヒヤリハット報告等を行い、意見交換や今後の取り組みを運営のみならず、サービスの向上に反映させています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーの一人になっていただいている。事業所の事情を把握してもらっており、市との連携に努めている。	市の担当者が運営推進会議に出席し、事業所の状況を把握しています。疑問や相談はその都度行い、助言やアイデアをサービスに活かしており日頃から協力関係が築けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修を実施している。職員一同で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止・虐待防止に関する研修や勉強会を年2回以上隣接する「養老の泉パートII」とともに開催しています。その中には市よりアドバイスを頂き必要な研修を行い、動画サイトによる勉強会を実施し、身体拘束をしない介護に意識を高めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について研修を実施して理解を深めている。職員全体で自分たちの行動が虐待にあたらないか、注意をしながら日々のケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を実施して理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの意見は、ここに伝えてもらっている。職員全体で共有している。	利用者とは簡単な会話はできますが、意見等は聴かれないため家族の面会時や電話連絡の折に積極的に声を聴くように努めています。出された意見は職員と共有して運営に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の時などに、意見を出せるようにしている。	各利用者の担当者を中心に意見交換や提案を行っています。また、月1回の会議や年2回の個別面談で、個人の考え・働き方の希望等、職員の声を聴くとともに話し易い雰囲気を作っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者による個人面談や、現場での会話などで個人の考え方や取り組みを把握している。毎月のスタッフ会議にも必ず参加し、職員が「今、何をすべきか」「何が必要か」等を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などに参加できるように機会があれば、参加者を募っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため、交流が制限されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活状態を把握するように努めている。コミュニケーションを多くとり、本人に受け入れられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めていることを理解し、どのような対応ができるか、事前に話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い状況などを確認する。信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人の意見も参考にし、生活の中でできることを見つけて、共に行い、役割を持つよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の様子や体調の変化があった時は、家族に知らせている。職員と家族が協力して共に本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、外部の方との接触が難しくなっている。関係が途切れないように努めている。	利用者の友人・知人も高齢化し訪問が困難になっていますが、家族の協力で馴染みの美容院や理髪店を利用しています。その中で送迎してくれる理髪店もあり、昔馴染みの関係継続ができています。職員も馴染みの関係の支援の大切さについて理解しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、良い関係が築けるよう心掛けている。利用者同士のトラブルが生じないように注意している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方も、継続的な付き合いができるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に話しかけ、本人の思いを聞き出せるよう努めている。利用者本位に心がけている。	日頃の会話の中から思いや希望を傾聴・把握し、可能な範囲で実現を目指しています。また、意思表示が難しい利用者には、心に寄り添い目線を合わせた対応等、常日頃のコミュニケーションが大切と考えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシート等の資料の活用と、日ごろの会話の中から、これまでの位を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状況を理解していき、無理をせず出来ることをしてもらうように心がけている。その日の様子を記録するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議等で話し合い、現状に即した計画になるよう、全員で話し合っている。	ミーティングや毎月のモニタリングを行い、定期見直しは6ヶ月を基本にしていますが、身体機能・認知症機能レベルにより随時見直しを行っています。家族・医師・担当職員等の意見・アイデア・利用者の思いを反映し介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に食事量、水分量、排泄等個人の様子がわかるような記録を心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、必要な支援を行っている。柔軟な対応ができるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため、地域資源は活用できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。緊急時にも対応できる体制をとっている。	入所前のかかりつけ医の継続はもとより、ホーム医への変更も、本人・家族の希望に沿って決定されています。専門医への受診は家族の対応となっていますが、臨機応変に対応されています。状態に変化があった際は、家族・医療機関・事業所と連絡を密に取れる体制が構築されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態、変化や以上に気づいた時は、すぐに看護師に報告し、対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、サマリー等で様子を知らせている。 入院中は病院、家族と連絡を取り合い、本人の状況を把握し、早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期、段階に応じて家族、医師等を交えて話し、方向性を共有している。また、記録をすることでチーム内で方法を統一し、個人に合った内容で取り組んでいる。	看取りに関しては、入所時に必ず本人と家族に重度化・終末期の説明を行っています。状況を見ながら事業所として出来る事や家族の意向を伺い、医療機関と連携を取り、決められた事は職員間で方向性を共有し、統一したケアの取り組みに努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応は、訓練を行い、いざという時に活用できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。	避難訓練は年2回行っています。災害時のマニュアル作成をもとに、職員間で周知徹底を行っています。時折、緊急連絡を回すなど事業所と職員での協力体制を構築しています。備蓄は法人が準備しています。	防災対策には限りがないため、より一層の防災対策を強化されていくことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けには注意するよう心掛けている。 本人が不快な思いをしないよう、さりげない声掛けやケアを心掛けている。	利用者のこれまでの生活環境を踏まえ、その方に合った声掛けを心掛けています。職員研修はコロナ禍の為、全員揃っての研修会は行っていませんが「eラーニング」「YouTube」等を利用し「尊厳」や「プライバシー保護」等の個別研修に取り組まれています。職員としての言葉づかいや口調、傾聴姿勢等、職員間で、お互いに注意し合える関係性作りに取り組まれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介助を行う時、わかりやすいように声掛けし、本人の同意を確認するようにしている。 本人の思いを引き出せる対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた対応を心掛けている。入浴や行事等、職員の都合で決めていることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや整髪等、見出し内には気を付けている。いふいくの汚れがあれば、さりげなく更衣している。本人が選んだ服を着てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を一緒に楽しみ、明るい雰囲気心がけている。できる利用者は限られているが、準備や片づけを一緒に行うようにしている。	食材は業者から購入しています。毎月の行事食や季節感を味わって頂けるよう、献立を取り入れています。食事の準備や片付けが出来ない利用者は、その方の出来る事を職員と一緒にさせて頂いています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の接種量を記録している。摂取量が少ない利用者には、食事の形態を変えてみたり、好きなものを家族に準備してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。自分でできる方には、声掛けして自分でしてもらっている。その際、本人だけに任せず、フォロー磨きも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できるように、さりげない声掛けをするように気を付けている。排泄チェック表を利用し、早めのトイレ誘導を行い、パットの使用を減らす努力をしている。	「トイレでの排泄」を基本に、排泄チェックシートを利用して利用者の排泄パターンを確認し、職員間で声掛けのタイミングを見ながら、連携しトイレへの誘導が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操等を行い、体を動かすよう心掛けている。水分摂取が少なくならないように声掛けし、飲んでもらうように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯を決めているが、入りたくないときには無理に勧めず、声掛けを工夫している。入浴を楽しめるよう、一人ひとり希望に沿うように努めている。	入浴は、週3回を基本にしていますが個々の希望に応じて、臨機応変に対応されています。ゆっくり入りたい方・ぬるま湯・熱いお湯など個々の希望(湯温)にも対応されています。拒否される方には、無理強いをせず時間を空けて声をかける等、気持ちよく入浴して頂くよう努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に合わせて、休んでもらっている。昼間の活動を多くし、夜間安眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬中の薬の説明書を、いつでも確認できるようにしている。確実に服薬できるよう支援しており、服薬拒否についても、タイミングを見て与薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事をしてもらったり、一人ひとりのできる事を行えるように、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、季節ごとのドライブはできていない。本人の希望があれば、買い物に出かけている。	コロナ禍で、外出支援は少なくなっていますが、少しコロナ感染人数が減った時に、初詣に出かけています。利用者の希望があれば、時間や感染状態を見ながら買い物の支援を行っています。事業所に時折パン屋さんに来ており、そこの買い物も、利用者にとっての楽しみとなっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理は事務所が行っているが、購入車が来た時など個別に買い物に行き、おやつ等を自分で買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により対応している。家族から手紙や贈り物が届いた時等は、電話をかけて話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度に気を配り、心地よい環境づくりを行っている。また、季節の飾りつけをしたり、花を生けたりして季節感を取り入れている。心地よく過ごせるように心がけている。	共有スペースで1日過ごされる利用者が多く、明るさ・温度・湿度に気配りが行われています。コロナ禍で外出を控えている利用者に、季節の花や飾り物を飾り季節感を感じて頂き、心地よく過ごして頂けるスペース作りに取り組まれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士が過ごせるような席配置にし、ソファやいすなど一人で過ごせるスペースも設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを中心に、快適な空間になるよう心がけている。本人や家族の写真等も活用している。	入所前に、以前から使い慣れた物を持参して頂きたい事を、家族にお伝えしています。居室には、家族写真・退職の際の寄せ書きなど壁に飾られています。布団干し・シーツ交換・洗濯をまめに行い、心地よく安眠して頂けるように取り組まれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレが確認できるよう、目印がある。また、部屋には表札を下げて、自分の部屋だと認識してもらうようにしている。その人の状態により、安全な環境作りに努めている。		